

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590700039		
法人名	社会福祉法人 元気の会		
事業所名	グループホーム 元気		
所在地	下松市大字山田256番地		
自己評価作成日	評価結果市町受理日	平成28年12月5日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりが活躍できる場面を多く作り、張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援しています。職員と利用者が「介護する一される」という一方的な関係でなく、そうじ、洗濯、花の世話、畑の草抜き、料理の下ごしらえ、ゴミ袋作りなど、それぞれの利用者の得意分野で力を発揮してもらい、お互い様という気持ちや感謝するという関係性を築いています。

食事は、管理栄養士が旬の食材を取り入れたメニューを作り、誕生日にはお祝い膳、近くのレストランでランチ、気候のいい時期にはピクニックなど食事が楽しみとなるように支援しています。

非常勤を含め4名の看護師が勤務しており、急変時もすぐに対応できるよう救急搬送用のサマリーを準備、かかりつけ医や薬剤師と気軽に相談できる医療連携体制ができています。看取りについては、状態変化に伴い話し合いを重ねるとともに意向確認書などで確認し、過去2名施設での看取りを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型の意義をふまえた事業所独自の理念を6項目作成されて、毎月1項目に焦点を当てられ、職員一人ひとりが理念の意義や思いについて語り、自分自身の行動を顧みること、全ての職員が理念について共有して実践につなげておられます。自己評価の取り組みとして、毎月のミーティングの中で説明をされ、ガイド集を基に職員が記入したものをまとめられ全職員で自己評価に取り組まれています。目標達成計画に沿って改善に努められ、「活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援」と「思いや意向の把握」について話し合われ、評価を活かして改善に取り組まれています。自治会に加入できたことで、地域の草刈りや地域の行事への参加の機会も増え、法人の秋祭りには中学生や高校生の参加があり、事業所が地域の一員として交流されています。事業所だよりには、子供や孫など家族からの寄稿を載せることで家族との交流にも努められています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	立場や経験に関わらず、パート職員も含め、事業所で働く職員一人ひとりが事業所の理念を理解するために、月1回のミーティングで理念を唱和、ブレインストーミング法を用いて意識統一を図り、理念の実践に努めている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。理念は6項目で、毎月ミーティングで理念を唱和している他、毎月1項目に焦点を当てて、職員自身が理念の意義や思いを語ることで、自分自身の行動を顧み、より良い支援が出来るように管理者と職員が共有して、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治体に加入し、近所とは日常的に声をかけ合っており、行事の際は互いに協力している。出初式、敬老会、公民館等の地域の行事に来賓として招かれており、施設長が出席している。ハーモニカ・朗読など地域ボランティアの訪問がある。	自治会に加入し、地域の草刈りに参加している。地域の行事の出初式や敬老会、公民館まつり、さんさまつり、公民館の行事には施設長が来賓として参加をしている。法人の秋まつりには地域から参加があり、今回は中学生や高校生が参加している。ボランティア(ハーモニカ、朗読、ホルンコンサート、ザ・ティーチャーズの歌や演奏、ミュージックセラピー)の来訪がある。中学生の福祉体験学習や介護福祉学生の実習の受け入れをしている。地域からの差し入れがあるなど、日常的に交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の福祉体験学習、地域ボランティアなどの訪問があり、利用者と交流している。介護福祉学生の実習の受け入れ等を通じて地域の暮らしの向上に努めている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	サービス向上に向けて意識づけをするために、ミーティングでサービス評価の目的について話し合い、職員全員が自己評価を行った。	ミーティングで自己評価の意義について説明し、ガイド集と自己評価をするための書類を全員に配布し、記入したものを管理者がまとめている。目標達成計画を立て、ミーティングで話し合っている。「活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援」「思いや意向の把握」について、改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催している。運営推進会議で活動報告、行事報告とともに、外部評価の結果について報告をしている。各委員も積極的に発言し、意見をもとに改善を図っている。	会議を、2か月に1回開催している。行事報告や利用者状況、職員状況、外部評価の結果などの報告をし話し合っている。地域のメンバーから、地区の行事の紹介を得て歌舞伎に参加をしたり、家族からの紹介で研修会に参加をしているなど、意見をサービスの向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは、利用状況等について報告を行い、事業所の実情やケアサービスの取り組みを必要に応じて相談して協力体制を築いている。運営推進会議にも毎回参加していただき、アドバイスをいただいている。	市の担当者とは、運営推進会議時の他、電話や出向いて相談して助言を得たり、情報交換をしている。市が開催する行事にも参加し協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や来訪があるなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者一人ひとりについてカンファレンスで話し合い、不穏状態になる前のかかわりを工夫している。 1階玄関、エレベーターや階段の出入り口の施錠をしていない。	職員はマニュアルに沿って内部研修で学び、正しく理解している。利用者の尊厳についてミーティングで話し合い、スピーチロックを含め拘束のないケアに取り組んでいる。玄関も施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待が行われていないか注意を払うとともに、虐待防止について研修を行い、職員間で意識の向上を図っている。 高齢者の尊厳遵守について、ミーティングで話し合っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者が4名。施設内の研修等で権利擁護について学ぶ機会を設けている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約および解約時において、文書にもとづき利用者、家族等に説明し理解と同意を求めている。重度化や看取りについての対応、医療連携体制について説明し、確認書を用いて意向の確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会の他、面会やイベントの際に意見を聞く機会としている。満足度や要望についてのアンケートを配布、匿名での記入をお願いしている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。意見箱を設置している。運営推進会議時や年2回の家族会、イベントへの参加時に家族から意見や要望を聞いている他、年1回の満足度や要望についてのアンケートを実施している。運営に反映するまでの意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングに施設長が参加しており、議題によって運営者も参加する。運営者、施設長、職員ともに日常的に意見を言いやすい環境があり、状況によって運営者は柔軟に対応している。	毎月の法人のミーティングや事業所のミーティング、6ヵ月毎の職員の面談で職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務の中でも意見を聞いている。洗濯回数の見直しや風呂の設備の改善について検討している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者はキャリアパスを活用し、職員の努力や実績を評価し、賞与に反映させている。 職員の資格取得に向けた支援を行い、職員のモチベーションを上げるよう働きかけている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	テーマと担当者を決めて、月1回内部研修を実施している。 資格取得への協力体制、資格手当等、スキルアップにつなげるよう取り組んでいる。	外部研修は職員に情報を伝え、希望を聞き、段階に応じて業務の一環として参加の機会を提供している。受講後はミーティングで伝達講習し、資料を閲覧している。法人研修で感染症について学んでいる他、内部研修は1年間の計画を立て毎月実施している。資格取得の協力体制も整備している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム連絡会は、2ヶ月に1回各施設持ち回りで情報交換を行っており、日々のサービスに活かしている。 また、県の協議会にも入会し、会議・研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前訪問し、利用者の困っていることや不安なことに耳を傾け、不安を軽減するとともに信頼関係をつくるよう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前に利用者・家族と面談し、生活歴や家族等が何に困っているのか、不安に思っている事、入居後の要望についてお伺いしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に受けているサービスがあればその担当者、入院中であればSW等、関係機関からの情報収集をしている。また利用者及び家族の要望をもとに可能な限り柔軟な対応を行っている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に、食器を洗う、掃除を手伝う、洗濯物を干したりたたんだり、生活の場で活躍していただいている。職員は感謝の気持ちを伝えて、共に支えあう関係作りをしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族や知人が気軽に面会に来れる雰囲気づくりをしている。日頃の様子を家族に面会時や電話で報告・相談し、協力していただいている。家族と職員が一緒に悩み考えながら、共に利用者を支えあう関係づくりを心がけている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人に年賀状や暑中見舞いを書く、誕生会に招待する、など、家族や友人が気軽に面会に来れるようにしている。	家族や親戚(孫やひ孫)の人、友人の来訪がある他、電話や暑中見舞い、年賀状での交流を支援している。馴染みの理容院の利用、家族の協力を得て墓参りや葬儀、通夜への参列を支援している。事業所だよりには、家族に利用者のエピソードを紹介してもらい、関係の継続に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者のレベルや性格等に関わらず、利用者同士がいっしょに生活する仲間となっていけるよう支援している。利用者同士で話をしたり、助け合ったりしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替えになった場合、本人の状況、習慣、好み、これまでのケアの工夫等の情報をサマリーや口頭で詳しく伝え、環境や暮らし方の継続性に配慮してもらえるよう働きかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉や言葉にしづらい思いを、日々の言動や表現からくみ取ろうと努力するとともに、日々の関わりの中で利用者の言葉を個人記録に言葉のまま書きとめ、情報を共有するようになっている。	入居時にセンター方式を活用してアセスメントしている他、日常の関わりの中での利用者の言動や聞き取った思いを個人記録に記録して、思いや意向の把握に努めている。事業所だよりも息子や孫など家族からメッセージを記載してもらい、これまでの生活を身近に感じる工夫をしている。困難な場合は本人本位に検討をしている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、今まで担当したケアマネジャーなどから生活歴について情報を得たり、さらに面会時に家族から話を聞くなど積極的に情報収集に努めている。センター方式を用いて、生活歴や思いの把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族や関係者による「できない」という情報にとらわれず、できること、わかる力を本人の生活から感じ取り、本人の全体像を把握するよう努めている。個々にできることに注目し、役割を持って過ごしていただけるように工夫して支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者と家族の要望を聞きながら、介護計画を作成している。その人らしく暮らしていただくために、楽しみとなることを見つけるよう努めている。状態に変化があったときは介護計画の見直しを行い、職員間で情報共有するよう努めている。	計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心に、利用者や家族の要望やかかりつけ医や看護師の意見を参考に話し合い、介護計画を作成している。個人記録にプランを反映しチェックを行い、6ヵ月毎にモニタリングを実施し、見直しをしている。利用者の状態に変化があった場合はその都度話し合い、状況に合わせた介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの日々の様子やケアの実践についてカードックスを用いて記録している。状態に変化があったときは随時カンファレンスをもち、ケアの具体的方法を検討するとともに介護計画を見直ししている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関と連携をとり、状態に変化があったときは随時、電話で報告・相談している。受診や入院の回避、早期退院の支援、医療処置を受けながらの生活の継続、重度化した場合や終末期の入院の回避など本人や家族の意向をもとに柔軟に対応している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民によるボランティア(歌、朗読、楽器の演奏など)やミュージックセラピーなど心豊かな生活が送れるよう支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月サマリーで一般状態等の報告をしている。他科(専門医)の初診時には、既往歴や現病歴、内服薬などの情報を記載したサマリーを作成している。本人や家族の意向を聞き、希望する医療機関に受診している。	利用者や家族が希望する医療機関や協力医療機関をかかりつけ医とし、家族と協力して受診を支援している。必要時には、協力医療機関からの往診がある。毎月サマリーで状況報告し、受診後は家族にも報告をしている。緊急時は協力医療機関と連携をとっている。適切な医療が受けられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、看護職に相談し、体調不良やバイタルサインに異常があるときは看護師に報告している。夜間においても、看護職と連携を取り対応しており、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、サマリーにて情報提供を行っている。入院中は病院のSWや家族から情報を得て早期退院ができるように努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について、家族会で話し合うとともに、意向確認書に記入していたき、利用者本人と家族の意向を確認している。看護師が家族、主治医と連携をとり看取りについて相談、具体的な打ち合わせを行っている。	「重度化した場合の対応にかかる指針」があり、契約時に家族に説明し「終末期の意向確認書」に記入をしている。家族会で話している。実際に重度化した場合は、早い段階から家族やかかりつけ医、関係者で話し合い、方針を決め共有して支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	転倒、誤薬、行方不明、火災発生時の対応マニュアルを作成し、ミーティングで周知徹底を図っている。ひやりはつとや事故報告書をもとにカンファレンスを行い、事故防止に向けて対策を話し合っている。消防署員によるAEDの使い方や胸骨圧迫の実技など救命講習に全職員が参加している。	事故報告書やヒヤリハット報告書に記録し、その場にいた職員で対応策を検討し、申し送りで報告し、報告書は掲示板に貼り内容を共有している。事例によっては、検討会議を開催し再発防止に努めている。窒息時、緊急時、脱水症、救急蘇生の対応マニュアルを作成し、看護師が研修と訓練を定期的に行っている。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者も参加して、昼間と夜間を想定した火災時の避難訓練を年2回実施している。防災の日に非常食の調理と試食を行っている。	年2回消防署の協力を得て、昼夜を想定した消火、避難、誘導、通報訓練を実施している。マニュアルも作成し、備蓄を用意している。防災の日には、非常食を調理して試食し、実際に使えるように試している。緊急時の連絡網に地域の人が2名加入しているが、訓練には参加を得られていない。地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を人生の先輩として尊敬し、利用者のプライドを傷つけないよう配慮している。ほかの家族や外来者に対して、利用者本人のプライバシーに関する話を話さないよう配慮している。	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊敬し、プライドを傷つけない言葉かけや対応をしている。常に相手の立場に立って考えるよう配慮をしている。気になる言動があれば管理者が指導している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に自己決定の機会を意識的に作っている。意思表示が難しい利用者に対しても、できる限り意思を汲み取るよう働きかけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、できる限り利用者一人ひとりのペースに合わせて生活の支援をしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ほとんどの利用者が訪問理容を利用しているが、なじみの理髪店に行く利用者もいる。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士が旬の食材を取り入れた献立を作っている。栄養士はカロリーや栄養素だけでなく、彩りにも配慮しており、検食簿に記入したフィードバックを元に献立を検討している。職員は利用者と同じ食卓を囲み、同じものを食べている。	食事の主菜、副菜は、三食とも法人の厨房で調理し、炊飯や盛り付けは事業所で行っている。利用者は、盛り付け、配膳、下膳、台拭きなどを職員と一緒にしている。管理栄養士が旬の食材を採り入れて献立をつくっている。月1回は回転寿司やレストランでの外食ランチ、または食事づくりをしている。ホットケーキやたこ焼きなどのおやつづくりをほぼ毎月行っている。誕生日には、利用者の好きなメニューにするなど、楽しみながら食事ができる工夫をしている。利用者と職員は同じ食卓を囲んで同じものを食べている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士を配置し、栄養バランスのとれた献立で食事を提供している。利用者の状態に応じて軟食メニューをオーダーしている。職員は、食事の形態(ミキサー・一口大・粥など)を変えたり、食器の種類や位置を変えたり工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方には声掛け・誘導を行い、できない方にはご本人の状態に応じた口腔ケアを行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、失禁する前に誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。意思表示が難しい利用者(全介助)もなるべくトイレでの排泄を心がけている。	排泄チェック表を活用して利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた声かけや誘導を行い、意思表示が困難な利用者も、トイレで排泄ができるように支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ほとんどの利用者が毎日体操している。排便の状態により、緩下剤を適宜増減している。排泄の記録をチェックし、便秘時には排便を促す食品(豆乳やはちみつなど)を利用し排便を促している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	よりリラックスしていただくために、時々入浴剤を入れて楽しんでいただいている。皮膚乾燥の強い利用者には洗剤を石鹸に代えたり、風呂上りにはワセリンなど塗布し皮膚の保護に努めている。	入浴は毎日、10時から16時までの間可能で、利用者の希望や体調に合わせて支援している。入浴が楽しめるように、ゆず湯や入浴剤を活用し、湯船の湯は一人ひとり湯を入れかえている。利用者の状態に合わせてシャワー浴、清拭、足浴で対応している。入浴をしたくない利用者には、時間をずらして再度声をかけたり、日にちを変えるなどして入浴ができるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり体調に応じて、自由に休息を取っていただいている。居室の温度・湿度に配慮し、エアコンや加湿器の管理をしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報をファイリングし、職員は常時確認できるようにしている。看護師が利用者の内服薬の管理を行っており、必要に応じて、医師や薬剤師とも連携を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的に、洗濯物を干す、たたむ、掃除、配膳、草抜き、ゴミ捨て、ゴミ袋作り、台拭きなどお願いできそうな仕事を頼んでいる。職員は感謝の気持ちを伝えている。	洗濯物を干す、洗濯物たたみ、掃除、食事の準備、配膳、下膳、台拭き、ゴミ捨て、ゴミ箱づくり、季節の行事(書初め、節分、七夕、クリスマス)、テレビ視聴、ビデオ鑑賞、ぬり絵、習字、壁面の飾りづくり、陶芸、アロマセラピー、音楽療法、トランプ、ジェンガ、ボール遊び、畑づくり、草抜き、野菜の収穫など一人ひとりに合わせて支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々のごみ出しや季節の花見、もみじ狩りなどのドライブや事業所周辺の散歩、気候のいいときは近くの公園でピクニックに出かけている。月1回程度近くのレストランで外食(ランチ)をしており、同行する家族もいる。家族と墓参りに行く利用者もいる。	近くの散歩やスーパーへの買い物、日々のごみ出し、季節の花見(梅、桜、コスモス、紅葉)公園へのピクニック、ドライブ、外食、家族の協力を得て、外食や外泊、墓参り、葬儀や通夜への出席など、外出ができるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により、少額だが自分でお金を所持している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望されるときは、自ら電話ができるように支援している。使い慣れた携帯電話を持参している利用者もいる。家族や友人に年賀状を書く支援もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は居心地のよい環境作りに心がけている。床暖房やエアコン、加湿器で温度湿度の調節を行っており、換気や消臭についても常に配慮している。	共用空間は、リビングを中心にそれぞれ居室が見渡せるようになっている。テーブルやいすは利用者に合わせた配置とし、テレビやソファを置いて、利用者がゆったりと気持ちよく過ごせる空間づくりをしている。リビングは床暖房になっており、空気清浄器や加湿器を置いて、環境に配慮している。季節の花や鉢植えを置いて、生活感や季節感を採り入れて居心地良く過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者一人ひとりが思い思いに過ごせるように、ソファやテーブルの配置を考え、また利用者同士の関係性に配慮し、居心地の良い場所の提供を工夫している。廊下の一部に、一人になれるスペースを作っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋に洗面台を設置。利用者はダンスやカーテン、テレビ等を持ち込み、花を飾ったり家族の写真を置いたりしてその人らしく安心して過ごせる居室となっている。	テーブル、椅子、ソファ、洋服ラック、ダンス、加湿器、ポータブルトイレ、携帯電話、化粧品、ぬいぐるみなどを持ち込み、利用者が作成した陶芸の作品、家族の写真を飾って、居心地良く過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止のために、居室のベッドの位置やポータブルトイレの位置を工夫したり、できるだけ安全で自立した生活が送れるよう支援している。 車椅子やキャスター付きのいす等を個人の状態に合わせて取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム元気

作成日: 平成 27 年 12 月 21 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	災害時(地震など)、地域との協力体制が構築されていない。	災害時(地震など)、地域との協力体制を構築する。	①連絡網に地域の人を3名追加する。 ②運営推進会議で検討課題として議題に上げ、非常時の対策について具体的に話し合う機会を作る。 ③運営推進会議のメンバーに、避難訓練の参加を呼びかける。	1年
2	5	運営推進会議の内容についてアピールが不足している。	運営推進会議の内容についてアピールできる。	運営推進会議について年2回の家族会で報告する。 運営推進会議の開催日を元気便り等で告知し、参加を呼びかける。	1年
3	49	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように一人ひとり活躍できる場面づくりを心がけているが、まだもっとできるのではないかと模索している。	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように一人ひとり活躍できる時間ができる。	一人ひとりの利用者について、職員全員で話し合う。	1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。